

令和 6 年度

保健医療学研究科
保健学専攻 修士課程

授 業 計 画
(シラバス)

明治国際医療大学大学院

令和6年度 大学院 保健学専攻 修士課程 教育課程

科目区分	授 業 科 目	配当 年次	単 位 数			時 間 数	備考
			必修	選択	自由		
基 盤 科 目	統合医療学特論	1	1			15	
	研究計画法特論	1	2			30	
	医療英語講読特論	1	1			15	
	データ解析学特論	1	2			30	
	英語プレゼンテーション学特論	1	1			15	
専 門 科 目	東洋医学概論	1	1			15	
	東洋医学基礎理論	1		1		15	
	未病医学特論	1	1			15	
	予防活動実践学特論Ⅰ	1	1			15	
	予防活動実践学特論Ⅱ	1	1			15	
	健康支援実践学特論Ⅰ	1	1			15	
	健康支援実践学特論Ⅱ	1	1			15	
	実践疫学特論	1	2			30	
	保健医療政策学特論	1	1			15	
	健康危機管理学特論	1		1		15	
	地域診断コミュニティデザイン学特論	1		1		15	
	心理コンサルテーション学特論	1		1		15	
	情報科学活用学特論	1		1		15	
	ヘルスケア創業経営学特論	1			1	15	
	特別演習	1・2	4			120	
	特別研究	1・2	8			240	

修了に必要な単位数は、必修科目 28 単位、専門科目の選択科目から 2 単位以上を修得し、合計 30 単位以上とする。

目 次

基盤科目

1. 統合医療学特論	1
2. 研究計画法特論	3
3. 医療英語講読特論	5
4. データ解析学特論	7
5. 英語プレゼンテーション学特論	10

専門科目

1. 東洋医学概論	12
2. 東洋医学基礎理論	14
3. 未病医学特論	16
4. 予防活動実践学特論Ⅰ	18
5. 予防活動実践学特論Ⅱ	20
6. 健康支援実践学特論Ⅰ	22
7. 健康支援実践学特論Ⅱ	25
8. 実践疫学特論	27
9. 保健医療政策学特論	30
10. 健康危機管理学特論	32
11. 地域診断コミュニティデザイン学特論	34
12. 心理コンサルテーション学特論	36
13. 情報科学活用学特論	38
14. ヘルスケア創業経営学特論	40
15. 特別演習	42
16. 特別研究	44

■ 基盤科目

授 業 科 目 名	統合医療学特論 〔オンデマンド授業〕					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 伊藤和憲					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療とCAM、⑦統合医療と高齢者、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）	1. 統合医療とは何かを理解する 2. 統合医療の治療法について概要を理解する 3. 未病や養生の概念について理解する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] 統合医療の歴史的背景 [到達目標] 統合医療がなぜ生まれたのかの歴史的背景が理解できる			特になし		
2	[授業概要] 統合医療の必要性 [到達目標] 現代の医療のなかで何故統合医療が必要となったのかが理解できる			特になし		
3	[授業概要] 日本における統合医療の現状 [到達目標] 日本の中で統合医療はどのように用いられているのかが理解できる			特になし		
4	[授業概要] 統合医療の実際 [到達目標] 様々な統合医療の利点や適応疾患などの概要が理解できる			特になし		
5	[授業概要] 統合医療の実践 [到達目標] 本学での統合医療の取り組みやその意味が理解できる			特になし		
6	[授業概要] 統合医療と今後の医療 [到達目標] 統合医療の次に必要な健康観を理解できる			特になし		

7	[授業概要] これからの統合医療 1 [到達目標] 医療のパラダイムシフトと未病の考え方が理解できる	特になし
8	[授業概要] これからの統合医療 2 [到達目標] 地域のつながりと予防	特になし
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		統合医療（金房堂） 今日から始める養生学（集英社インターナショナル）
評 価 方 法		レポート課題と出席による
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	研究計画法特論〔オンデマンド授業〕					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 （ ◎ は 単 位 認 定 者 ）	◎ 渡邊康晴					
テ ー マ	学会発表、論文作成ができる研究計画を作る					
授 業 の 概 要	研究とは、現象やメカニズムなどが明らかにされていない事象に対して、研究計画を立て、実験・調査を行い、得られたデータを解析し結論を得た上で、社会に対して結果を発表するまでの一連の過程である。研究を成功させるためには、リサーチクエスションを立て、緻密な研究計画を立てる必要があり、そのためには、過去の多くの先行研究の知識、研究・調査方法に関する知識、データ解析法などを学修しなければならない。 本科目では、研究を行うために必要な一連の事柄を理解した上で、仮想のテーマによって研究計画を立てる、研究倫理を考慮するなどの演習を通して研究を行う上で基本的な知識を修得する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ ね ら い ）	1. 自身の研究計画を立てることをゴールとする 2. 研究に必要な一連の事柄を理解する 3. 様々な研究手法があることを理解する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] 実験研究の流れ [到達目標] 実験研究に関する流れが説明できる			実験研究の事例を参照しつつ、自身の研究の大まかな流れを作成する		
2	[授業概要] 研究倫理を知る [到達目標] 研究遂行に際し、必要な倫理・配慮について説明できる			研究倫理の web 教育をもって準用するので、必ず受講すること		
3	[授業概要] 文献を調べる [到達目標] 自身の研究に必要な国内外の文献を集めることができる			自身の研究において、背景、方法、等で参考となる論文を集める		
4	[授業概要] 研究課題を作る [到達目標] 帰納的推論と演繹的推論の違いが説明でき、仮説形成が行える			自身の研究領域において、検証可能な仮説を作ること		
5	[授業概要] 実験デザインに必要な統計の基本 [到達目標] 実験研究をデザインする上で必須の統計が理解できる			前講で作成した仮説に対し、必要な統計について調べること		

6	[授業概要] 基礎研究の実験デザイン [到達目標] アウトカムの設定とコントロール設置の必要性が理解できる	実験研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
7	[授業概要] 臨床研究の実験デザイン [到達目標] 臨床研究の実験デザインの種類とエビデンスのレベルが分かる	臨床研究の論文（症例報告・症例集積も可）を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
8	[授業概要] 調査研究の実験デザイン [到達目標] アンケート調査の実験デザインがわかる	調査・質的研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
9	[授業概要] 質的研究の実験デザイン [到達目標] 質的研究の種類や方法が理解できる	
10	[授業概要] 学会に発表しよう [到達目標] 学会での発表形式を説明でき、質疑応答の必要性を理解できる	自身の研究デザインで学会発表を行うと仮定し、目的と方法のスライドを作成する
11	[授業概要] 研究結果を論文にしよう [到達目標] 研究結果の制限（限界）について論じることができる	自身の研究デザインの制限について検証し、文章でまとめる
12	[授業概要] 査読について [到達目標] 査読と批判的思考の必要性について説明できる	論文を1編えらび、自身が査読者になったと仮定して、批判的に精読し、問題点を指摘する
13	[授業概要] 研究プロトコルの作成 [到達目標] 興味のある分野について、研究プロトコルを作成できる	研究プロトコルを作成した上で、予想される結果、その結果の解釈の概略をまとめる
14	[授業概要] まとめ [到達目標] 自身が行いたい研究テーマで実験計画を立案できる	立案した実験計画を遂行する際の課題点とその対策についてまとめる
15	[授業概要] [到達目標]	
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		授業時に適宜、指示する。
評 価 方 法		授業時間外学習で示した課題の取り組み状況と出席状況によって評価する。
その他（アドバイス等）		授業では一般的な研究計画の方法について講義する。大学院担当の教員は優れた研究者であり、個々に十分な研究経験を有することが多い。これらの教員の研究経験を積極的に聴取すると、研究デザインの幅を広げる助けとなる。

授 業 科 目 名	医療英語講読特論 [オンデマンド授業]					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 林 知也					
テ マ	英語論文を正確に読める能力を身につける。					
授 業 の 概 要	研究を行うためには先行研究の多くの論文を読み、理解しなくてはならない。よほどの狭い分野でない限り、研究で得られた知識は日本だけでなく、世界共通となるため、論文は基本的には英文が主体となる。すなわち英語論文が読めなくては研究ができない。英語論文は専門用語が多用され、かつ共通したマナーがあるため、それらマナーを理解しなくてはならない。本科目では、英語論文を読み書きするための基本的能力を実際の論文を用いて理解し、学修する。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	専門用語は、院生の研究テーマによって若干の違いがあるため、それらの単語を覚えさせることに主眼を置くのではなく、論文共通のマナーを理解させることを主眼とする。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 英語論文の概要について [到達目標] Abstract, Introduction, Methods (Materials & Methods), Results, Discussion, Reference, Figures & Tables の意味, 役割を理解する。			Pubmed などの検索データベースを使って英語論文の検索ができるようにする。		
2	[授業概要] 1 つ目の論文の Abstract, Introduction について [到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。			1 つ 目 の 論 文 の Abstract , Introduction を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		
3	[授 業 概 要] 1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。			1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		
4	[授業概要] 1 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。			1 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		

5	[授業概要] 2 つ目の論文の Abstract, Introduction について [到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。	2 つ目の論文の Abstract, Introduction を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
6	[授業概要] 2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。	2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
7	[授業概要] 2 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。	2 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
8	[授業概要] 3 つ目の論文としての short communication について [到達目標] original article との違いを理解した上で、内容を理解する。	3 つ目の論文としての short communication を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
テキスト（配付資料）		4 つの英語論文を配布する。
参 考 文 献		・一般的な英日辞書 ・医学専門用語の英日辞書 ・医学の専門用語が十分に掲載されている英語の電子辞書など
評 価 方 法		4 つ目の英語論文の内容理解についてレポートにて評価する。
その他（アドバイス等）		事前に英語論文の検索方法を学んでおくこと。

授 業 科 目 名		データ解析学特論 [オンデマンド授業]					
単 位 数 等		単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)		◎ 渡邊康晴、梅田雅宏、酒井晃二、河合裕子、星野明子					
テ ー マ		研究データの示し方や取り扱いを学修する					
授 業 の 概 要		研究によって得られたデータの整理の仕方、PC への入力の仕方及びそれらの解析方法の基本を学修する。本科目では、基本統計学を基礎として、多くの統計手法について各々の特徴を理解し、目的に応じた統計処理ができるように学修する。また医療の領域で用いられる質的研究方法（GTA、エスノグラフィ等）のデータ収集及び解析方法についても教授する。前半は表計算ソフトの復習と統計手法及び質的研究手法の説明を行い、後半は実データを用いた統計分析、質的分析を実践する。 (共同・オムニバス方式／全15回) (渡邊康晴・梅田雅宏・河合裕子／10回)(共同) Excel を中心とした研究データの整理とデータの提示、統計解析法の基礎事項について教授する。 (酒井晃二／2回) 測定と誤差の理解、G*Power を利用したサンプル数の決定 (星野明子／3回) 保健医療の領域における質的研究法、データ解析方法等について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)		1. 計測された数値データや文書データの扱い方について学習する 2. コンピュータを用いてデータを適切に処理・整理する 3. データの見方、客観的な判断方法の統計手法の選択を学習する					
日程		概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1 (河合)		[授業概要] excel や spreadsheet など表計算ソフトの使い方1(基礎編) [到達目標] 表計算ソフトの基本的な利用法からグラフ作成、関数利用などが行えるようにする。			Excel の稼働を確認して各自準備しておくこと。Excel が正常に動作しない場合(編集権限がないなど)は ICT に連絡を取りアカウントなどの確認を済ませておくこと。 Excel の入力や関数利用などの基本項目は各自自習して講義に臨むこと。		
2 (河合)		[授業概要] 表計算ソフトの使い方2(応用編) [到達目標] 表計算ソフトを使ってデータを様々な解析する発展的利用法まで行えるようにする。			解析したいデータなどを各自見つけておくこと。		
3 (河合)		[授業概要] 表計算ソフトの使い方3(応用編)および統計の基本的な考え方について			2 の復習を各自参考書で行っておく。		

	理解する。 [到達目標] 少し大きなデータを表計算ソフトで扱うときの工夫や注意などを理解し、わかりやすいデータのまとめ方ができるようにする。統計手法が選択できる。	
4 (梅田)	[授業概要] Excel での t 検定を行う方法について復習する。各自の PC に無料で公開されている画像解析ソフト ImageJ をインストールし、MRI データをダウンロードして準備する。また運動による MRI 画像コントラスト変化について理解する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができ、MRI 特徴料の変化から生体の変化を読み解くことができる。計測データ、統計処理、結果の解釈などを課題レポートして提出する(成績評価対象)。	HP を見て各自、Excel での t 検定とその復習を行い、各自の PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。
5 (梅田)	[授業概要] ImageJ と骨格筋 MRI のサンプルデータから ImageJ を用いて T_2^* 計算画像を作成し、運動前と運動後の関心領域の T_2^* の差を検定する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができる。	HP を見て各自 PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。
6 (梅田)	[授業概要] ノンパラメトリック検定の例として Willcoxon の順位和検定を取り上げる。表計算ソフトの練習を兼ねて、Willcoxon の順位和検定を Excel にて行う。 [到達目標] Willcoxon 検定の作業の仕組みを理解し、Excel の操作を学習する。	HP に掲載された Willcoxon 検定作業方法を理解しておく。
7 (梅田)	[授業概要] ウェアラブルデバイスを利用した生体情報収集の仕組みおよび生体情報センサーについて解説する。 [到達目標] 生体情報収集の仕組みと問題点を理解する。	HP に掲載されているウェアラブルデバイスに情報収集について予習しておく。
8 (酒井)	[授業概要] データ集計の基本及び仮説検定の考え方 1 [到達目標] 簡単なデータ集計を行えるようにする。また、仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。	
9	[授業概要] Excel を用いて集計したデー	G*Power 3.1.9.2 の予習

(酒井)	タを検定する [到達目標] PC を用いて収集したデータを検定おこない、データ収集を検定することの意味を理解する。	http://www.psychologie.hhu.de/ 内容を確認すること。 統計検定力について調査すること。
1 0 (渡邊)	[授業概要] クロス集計表を用いた統計 [到達目標] クロス集計表を活用し、度数を用いた統計が行え、感度と特異度の違いが理解できる。	
1 1 (渡邊)	[授業概要] 3 群以上の統計 1 [到達目標] 1 元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
1 2 (渡邊)	[授業概要] 3 群以上の統計 2 [到達目標] 2 元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
1 3 (星野)	[授業概要] 質的研究の問い、主なデータ収集方法について学修します。 [到達目標] 質的研究の特徴を理解できる。	参考文献等を参考にして、質的研究と量的研究について整理しましょう。
1 4 (星野)	[授業概要] 質的研究のデータ分析方法と具体的展開について学修します。 [到達目標] 質的研究の主なデータ収集と分析等について理解できる。	授業後に質的研究手法を使用した論文を読み、データ収集方法について確認してみましょう。
1 5 (星野)	[授業概要] 質的研究方法を用いた論文を紹介し、クリティークします。 [到達目標] 質的研究手法に適した研究の問いと研究プロセスを考えることができる。	興味のある質的研究論文を読んでクリティークしてみましょう。
テキスト（配付資料）	特にテキストは指定しないが、統計の基本的な図書を各自準備し一通り読んでおくこと。	
参 考 文 献	なし。	
評 価 方 法	1) ImageJ による MRI サンプルデータを ImageJ で処理し、緩和時間変化を excel でまとめて t 検定を行い、結果から読み取れる生体の変化について総合的な研究レポートを提出する。 2) 各自の計画している研究計画(何をどのように調べるか、計測方法などを含めて)と、その中で利用する統計手法、手法を選択した理由をまとめる。指導教官と研究打ち合わせが済んでいない方、実験研究を行わない方は仮想的な実験についてこれらを記載したレポートを提出する。	
その他（アドバイス等）	参考 URL: 数理統計研究所 https://www.ism.ac.jp/ 明治国際医療大学・医療情報: http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/medinfo_intro	

授 業 科 目 名	英語プレゼンテーション学特論〔オンデマンド授業〕					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 鶴 浩幸					
テ ー マ	日本語・英語によるプレゼンテーション方法の習得					
授 業 の 概 要	日本語及び英語を用いた、学術的な資料作成の方法（アカデミックライティングの基礎）、口頭発表の方法、そして質疑応答の方法など、プレゼンテーションに必要とされる学術的技術の基礎を学修していく。 講義前半では、日本語によるプレゼンテーション法を学ぶことを通じて、プレゼンテーション能力の基礎を身につけ、後半では、英語によるプレゼンテーションの構成、表現法について学んでいく。またここでは、国際学会へ参加する際に必要となる心得などについても理解を深めていく。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）	1. プレゼンテーションとは何かを知る 2. 日本語によるプレゼンテーション法を習得する 3. 英語によるプレゼンテーション法を習得する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] プレゼンテーションとは・本講義のスケジュールと講義内容 [到達目標] プレゼンテーション一般の理解・今後の授業計画説明			自らの研究内容を再確認し、プレゼンテーション作成に備える		
2	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを考える [到達目標] 日本語でプレゼンテーションの構造について理解を深める			自らの関心に引きつけてプレゼンテーションの構成についてイメージを膨らませる		
3	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを構成する [到達目標] 日本語でプレゼンテーションのシナリオを作成する			プレゼンテーションのためのスライドを作成する		
4	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを行う [到達目標] 日本語によるプレゼンテーションと質疑応答を実践する			人前で自分の考え・意見を表現する方法を学ぶ		
5	[授業概要] 英語プレゼンテーション法Ⅰ [到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ（前編）			日本語で構成したプレゼンテーションを英語で表現するためのノウハウを学ぶ		
6	[授業概要] 英語プレゼンテーション法Ⅱ			日本語で構成したプレゼンテーシ		

	[到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ（後編）	ョンを英語で表現するためのノウハウを学ぶ
7	[授業概要] 英語でのプレゼンテーションを構成する [到達目標] 英語によるプレゼンテーションのシナリオを作成する	プレゼンテーションのためのスライドを英語で作成する
8	[授業概要] まとめ [到達目標] これまでの授業内容を再確認し、今後の課題を検討する	これまでの授業を省み、日本語／英語によるプレゼンテーションの構成を再考する
テキスト（配付資料）		添付資料など。
参 考 文 献		
評 価 方 法		毎週の課題（30%）と最終課題（70%）の提出
その他（アドバイス等）		授業内容や課題に取り組む際に質問や意見がある場合は、メールを通じて教員まで連絡するようにしてください。 h_tsuru@meiji-u.ac.jp

■ 専門科目

授 業 科 目 名	東洋医学概論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 和辻 直					
テ ー マ	東洋医学（東アジア伝統医学）の基本となる理論を学習することで、東洋医学の基礎を理解する。					
授 業 の 概 要	東洋医学（東アジア伝統医学）の基盤をなす自然観、生体観、古代中国科学の思考様式などについて学修し、東洋医学の特色を理解するとともに説明できるようにする。東洋医学の自然観はエコロジーの思想に繋がること、身心一如の用語に象徴されるように全人的な視点による生体観を踏まえ、生きている人間を捉えることについて課題などを通して特色を理解する。また、古代中国科学の思考様式の有用性についても理解し、複雑な現象を理解する上での視点の涵養を図り、多元的な思考能力を培う。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）	1. 東洋医学の特色を理解でき、その要点を説明できる。 2. 東洋医学の基本理論を理解でき、その要点を説明できる。 3. 東洋医学の診療を理解でき、その要点を説明できる。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] 東洋医学の基盤をなす自然観と生体観を学習し、その概要をまとめる。 [到達目標] 東洋医学の用語や東洋医学の自然観・生体観の基本を理解でき、概要を説明できる。			古代中国科学の思考様式が、現在のエコロジーの思想に繋がるのかを検討してまとめる（300～500字）。		
2	[授業概要] 東洋医学における人体を構成する要素を学習する。また気の内容や作用、変調を学習する。 [到達目標] 東洋医学における人体を構成する要素、気の内容や作用、変調を理解でき、要点を説明できる。			気を理解する上で、気の内容を整理して、見直して復習する。		
3	[授業概要] 血・津液・精・神の概要や作用、変調を学習する。 [到達目標] 血・津液・精・神の概要や作用、変調を理解でき、要点を説明できる。			精の作用や年齢との関係について整理して、復習する。		

4	[授業概要] 東洋医学における病因の概要や発病の概念を学習する。 [到達目標] 東洋医学における病因の概要や発病の概念を理解でき、概要を説明できる。	東洋医学の内因と身体との関係について整理して、まとめる(300～500字)。
5	[授業概要] 臓腑の概要や作用、変調を学習する。 [到達目標] 臓腑の概要や作用、変調を理解でき、概要を説明できる。	東洋医学の臓腑の作用や、臓腑の相互関係を整理して、復習する。
6	[授業概要] 経絡の概要や作用、変調を学習する。また腧穴(ツボ)の概念や作用、変調を学習する。 [到達目標] 経絡の概要や作用、変調を理解でき、要点を説明できる。	手足の経穴には五腧穴があるが、それは経脈と関係が深い、その理由を検討する。(300～500字)。
7	[授業概要] 東洋医学の診察(四診)の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学の診察(四診)の概要を理解でき、要点を説明できる。	東洋医学の診察法において、漢方が重視している診察法について代表的な2つを選び、整理して、復習する。
8	[授業概要] 東洋医学(漢方と鍼灸)の治療の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学の治療(漢方と鍼灸)の概要を理解でき、要点を説明できる。	東洋医学の基本となる理論を学習し、現在の医学にとって、どのような意味があるのかを考察する。(500～700字)。
テキスト(配付資料)		配布資料
参考文献		『いちばんわかる! 東洋医学のきほん帳』伊藤 剛著, 学研。
評価方法		各講義の小テストとレポート課題による評価より、総合して評価する。
その他(アドバイス等)		東洋医学(東アジア伝統医学)の捉え方は、日本と中国で共通点と相違点があるので、その違いを理解することも重要である。

授 業 科 目 名	東洋医学基礎理論【選択必修】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 廣 正基					
テ ー マ	東洋医学の基礎理論から診察法及び病態把握を学習し、経絡経穴を利用した刺激効果について理解する。					
授 業 の 概 要	東洋医学の基礎理論として身心の診方(診察法)、病態の把握(弁証法)について学修し、併せて主要な経絡経穴への刺激効果とその機序について学修する。東洋医学の身体の診方(診察法)の特色について学修し、それらの演習を通して基本的な病態の把握(病証の立て方)ができるように診察能力を修得する。そのことを踏まえて、セルフケアの手法とその効果に関するエビデンスについて学修し、説明できるようにする。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	1. 東洋医学の診察法・病態把握を理解し、診察の要点を説明できる。 2. 経絡経穴を理解でき、その要点を説明できる。 3. 東洋医学的な診察結果から経絡経穴を利用した刺激効果について説明できる。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要]臓腑の概要や作用、変調を学習する。 [到達目標] 臓腑の概要や作用、変調を理解でき、概要を説明できる。			東洋医学の臓腑の作用や、臓腑の相互関係を整理して、復習する。		
2	[授業概要] 東洋医学の診察 (四診) の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学の診察(四診)の概要を理解でき、要点を説明できる。			東洋医学の診察法において、整理して、復習する。		
3	[授業概要] 東洋医学の診察 (四診) の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学の診察(四診)の概要を理解でき、要点を説明できる。			東洋医学の診察法において、整理して、復習する。		
4	[授業概要]経絡の概要や作用、変調を学習する。また経穴の概念や作用、変調を学習する。 [到達目標] 経絡経穴の概要や作用、変調を理解でき、要点を説明できる。			手足の経穴には五腧穴があるが、それは経脈について整理し、復習する。		

5	[授業概要] 各部位（上肢・下肢）の経絡経穴を学習する。症状に応じた主要な経絡経穴を学習する。 [到達目標] 各部に対する経絡経穴が理解でき、主要な経絡経穴への刺激効果を説明できる。	各部位ごとの症状に対する、経絡経穴について整理して復習する。
6	[授業概要] 各部位（頭顔面部）の経絡経穴を学習する。症状に応じた主要な経絡経穴を学習する。 [到達目標] 各部に対する経絡経穴が理解でき、主要な経絡経穴への刺激効果を説明できる。	各部位ごとの症状に対する、経絡経穴について整理して復習する。
7	[授業概要] 各部位（胸腹部・背部）の経絡経穴を学習する。症状に応じた主要な経絡経穴を学習する。 [到達目標] 各部に対する経絡経穴が理解でき、主要な経絡経穴への刺激効果を説明できる。	各部位ごとの症状に対する、経絡経穴について整理して復習する。
8	[授業概要] 東洋医学的診察から病態把握、症状に応じた主要な経絡経穴を学習する。 [到達目標] 東洋医学的診察から病態把握および経絡経穴が理解でき、症状に応じた主要な経絡経穴への刺激効果を説明できる。	東洋医学の基礎理論として身心の診方（診察法）、病態の把握（弁証法）について学修し、併せて主要な経絡経穴への刺激効果とその機序について学修する。
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		「東洋医学の専門医がやさしく教える即効 100 ツボ」 伊藤 剛著、高橋書店
評 価 方 法		各講義の小テストとレポート課題による評価より、総合して評価する。
その他（アドバイス等）		東洋医学的診察を行うにあたり、経絡の特徴とともに、各部位ごとに存在する経絡および経穴を理解することが重要である。随時

授 業 科 目 名	未病医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 伊藤和憲					
テ ー マ	1. 未病とは何かを知る？					
授 業 の 概 要	東洋医学の最大の特徴は「未病治」である。「未病」の概念、「未病を治す」の意義を踏まえ、健康維持増進及び予防法に関する東洋医学的な手法の理論と実際(養生法)について学修し、日常生活の中で指導できるようにする。超高齢社会、少子化社会の到来により、医療のかたちは大きく変容することが迫られている。その最大の要諦は治療から予防・健康維持増進・未病治である。これらに関する東洋医学的な理論と手法(養生法)を学修し、地域社会において実践できる能力を修得する。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	1. 未病とは何かを知る 2. 養生の意味を知る 3. 養生の基本原則を知る					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 1 [到達目標] 養生という新たな予防法について理解できる			特になし		
2	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 2 [到達目標] 養生教育の導入方法について理解できる			特になし		
3	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 3 [到達目標] 「緩める」の科学的根拠を理解できる			特になし		
4	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 4 [到達目標] 「温める」の科学的根拠を理解できる			特になし		
5	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 5 [到達目標] 「食事」の科学的根拠を理解できる			特になし		
6	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 6 [到達目標] 「思考」の科学的根拠を理解できる			特になし		
7	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 7 [到達目標] 「リズム」の科学的根拠を理解できる			特になし		

8	[授業概要] 東洋医学について学ぼう 8 [到達目標] 「鍛える」の科学的根拠を理解できる	特になし
テキスト（配付資料）	配布資料	
参 考 文 献	今日から始める養生学（集英社インターナショナル）	
評 価 方 法	レポート課題と出席（提出）による	
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	予防活動実践学特論 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 桂 敏樹、木村篤史、栗山真由美、松本和久					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	小児期から老年期までのライフコースに応じた保健活動と介護予防の一体的実施（成人保健、老人保健等）や、保健計画、保健事業の立案、実施、評価について事例を用いて教授する。また、予防活動の実践として運動による健康づくりや身体機能の維持増進活動について教授する。 （オムニバス方式／全8回） （桂 敏樹／3回） 成人期から高齢期までのライフコースに一貫した予防活動、保健活動と保健計画・保健事業の立案、実施、評価について教授する。 （栗山真由美／2回） 地域高齢者の運動による健康増進に関する研究とその方法及び研究成果に基づいたエビデンスのある予防法について教授する。 （松本和久／2回） 高齢者の自立維持・改善を図るために必要とされるロコモティブ・シンドロームの予防法として在宅でできる運動療法について教授する。 （木村篤史／1回） 高齢者の自立維持・改善を図るために必要とされるフレイル(主として身体的フレイル)に対する予防法について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）	1. 保健活動の立案、実施、評価について理解する。 2. 高齢者の在宅運動療法について理解する。 3. 高齢者の身体的フレイル予防について理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (桂)	[授業概要] 地域・職域における生活習慣病予防活動とその評価について教授する。 [到達目標] 地域・職域における生活習慣病予防活動とその評価について理解できる。					
2 (桂)	[授業概要] 地域におけるフレイル・介護予防対策について教授する。 [到達目標] 地域におけるフレイル・介護予防対策について理解できる。					

3 (栗山)	[授業概要] 地域における高齢者の健康増進活動について教授する。 [到達目標] 地域における高齢者の健康増進活動について理解できる。	
4 (栗山)	[授業概要] 運動による高齢者の健康増進、予防活動について教授する。 [到達目標] 運動による高齢者の健康増進、予防活動について理解できる。	
5 (松本)	[授業概要] 高齢者のロコモティブシンドローム（以下ロコモ）について教授する。 [到達目標] 高齢者のロコモについて理解できる。	
6 (松本)	[授業概要] 高齢者のロコモ予防のための在宅運動療法について教授する。 [到達目標] 高齢者のロコモ予防のための在宅運動療法について理解できる。	
7 (木村)	[授業概要] 高齢者の、主としてフレイルに対する予防法について教授する。 [到達目標] 高齢者の、主としてフレイルに対する予防法について理解できる。	
8 (桂)	[授業概要] 各種の保健計画や保健事業の立案、実施、評価および施策化について教授する。 [到達目標] 各種の保健計画や保健事業の立案、実施、評価および施策化について理解できる。	
テキスト（配付資料）	資料を配布する	
参 考 文 献	適宜紹介する	
評 価 方 法	レポートで評価する	
その他（アドバイス等）	特に成人期から老年期における予防活動、保健活動について学修を深めてください。	

授 業 科 目 名	予防活動実践学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 玉井公子、栗山真由美、木村篤史、坪倉浩美、坪倉寛明					
テ ー マ	予防活動や健康支援活動の基盤となる保健医療福祉システムやネットワークおよびその構築等について					
授 業 の 概 要	予防活動（母子保健、成人・老人保健等）や健康支援活動の基盤となる救急を含む保健医療福祉システムやネットワークおよびその構築等について事例を用いて教授する。また、予防活動を展開するために必要な地域組織活動や施策化、その他様々な予防活動を展開する方法論について教授する。 （オムニバス方式／全8回） （栗山真由美、木村篤史／2回） 高齢者保健、介護予防について事例等を活用して教授する。また、地区組織化及び施策化、保健事業の企画、実施、評価についても教授する。 （玉井公子、坪倉浩美、坪倉寛明／6回） 母子保健活動の事例等を活用して教授する。また、救急を含む保健医療福祉システムやネットワークの構築、評価等について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い）	1．母子・成老人の健康支援における保健医療福祉システム（救急を含む）およびネットワークを理解する。 2．母子・成老人の予防活動を展開するための地区組織化、保健事業企画について理解する。 3．母子・成老人の予防活動展開におけるポピュレーションアプローチを理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (玉井)	[授業概要] 地域住民の健康支援活動における地区組織化、ネットワークづくりについて [到達目標] 地区組織化の重要性について理解を深める。					
2 (坪倉寛明)	[授業概要] 地域住民を支える在宅医療における救急搬送のあり方について教授する。 [到達目標] 消防を含めた地域医療関係機関の連携について理解を深める。					

3 (栗山)	[授業概要] 地域高齢者の健康づくりのあり方について [到達目標] 地域高齢者の健康づくりのあり方について実践的な活動を通して理解を深める。	
4 (木村)	[授業概要] 地域住民の介護予防におけるポピュレーションアプローチについて [到達目標] 地域住民の介護予防におけるポピュレーションアプローチの具体的事業や課題について理解を深める。	
5 (玉井)	[授業概要] 地域における母子保健活動の事例を用いて支援体制の構築について学ぶ。 [到達目標] 地域の母子保健に関する課題を把握し地域での支援方法を理解する。	
6 (坪倉浩美)	[授業概要] 母子育児支援における病産院と地域との連携について学ぶ。(産前・産後ケアの視点から) [到達目標] 産前・産後ケアの現状を通して母子支援の理解を深める。	
7 (坪倉浩美)	[授業概要] 地域における母子の育児支援のあり方について学ぶ。(児童虐待の視点から) [到達目標] 児童虐待の事例から母子の育児支援の理解を深める。	
8 (玉井)	[授業概要] 地域における保健医療福祉システム及びネットワークの構築について [到達目標] 地域全体の健康支援活動の基盤となる保健医療福祉システムやネットワーク構築における目指す方向について理解を深める。	
テキスト(配付資料)		配布資料
参 考 文 献		関係する研究論文を参考とする
評 価 方 法		
その他(アドバイス等)		

授 業 科 目 名	健康支援実践学特論 I					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 森岡朋子、玉井公子、岩本美由紀、工藤大佑					
テ ー マ	さまざまな健康問題を抱えた対象者（健常者、障害（児）者や高齢者）およびさまざまなステージへの健康支援の在り方を多面的かつ具体的に教授する。					
授 業 の 概 要	様々な領域（感染症、難病、虐待、精神障害、発達障害や地域保健医療、在宅医療、終末期医療、緩和医療等）の問題を抱えた個人や集団に対する実践的かつ効果的な健康支援方法等について具体的な事例を用いて教授する。 （オムニバス方式／全8回） （森岡朋子／2回） 精神障害（主に認知症）、難病、虐待等の課題を持つ個人や集団に対する健康支援方法や在宅医療における保健・医療・福祉連携について教授する。また、複合課題を抱える困難事例に関する実践的かつ効果的な支援方法について最新の知見を用いて教授する。 （工藤大佑／2回） 我が国の高齢者の健康をめぐる現状について最新のデータを用いて教授する。 また、国内外における終末期医療・緩和医療の現状と課題について教授する。 （岩本美由紀／2回）生活習慣病やアレルギー疾患、発達障害など、近年の子どもに増加している健康問題について教授する。また、各成長発達段階の特徴をふまえ、健康増進に向けての子どもと家族への支援について考察する機会とする。 （玉井公子／2回）感染症保健を取り巻く現状を理解し、効果的な保健対策の在り方を教授する。また、地域の現状をデータから分析し、地域での感染症対策を教授する。 さまざまな健康問題およびさまざまなステージへの健康支援の在り方について検討する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い）	1. Quality of Life(生活の質)の向上について、さまざまな健康問題を抱えた対象者（健常者、障害（児）者や高齢者）の現状について理解する。 2. 予防の視点から健康問題について理解する。 3. 健康の概念からさまざまなステージにおける個人や集団への具体的な健康支援策を多面的に考察する。					

授 業 計 画		
日程	概 要	備考（授業時間外学習の指示等）
1 (森岡)	[授業概要]認知症、難病を取り巻く現状を理解し、在宅医療における保健・医療・福祉連携について、事例を用いて検討する [到達目標]多職種連携、多職種協働による支援方法を考察する	ICF を理解しておくこと
2 (森岡)	[授業概要]虐待における現状を理解し、複合課題を抱える事例から、支援の在り方について検討する [到達目標] 今後の課題を明らかにする	日本における高齢者虐待および児童虐待の現状を把握する
3 (工藤)	[授業概要]我が国の高齢者における現状と課題について検討する。 [到達目標]高齢者医療・福祉の現状を理解し、具体的な健康支援策を考察する。	
4 (工藤)	[授業概要]在宅医療・終末期医療を取り巻く現状を理解し、健康支援策について検討する。 [到達目標]終末期医療・緩和医療の現状を理解し、具体的な健康支援策を考察する。	
7 (岩本)	[授業概要]近年の子どもを取り巻く環境の変化と、子どもの成長発達過程の特徴を理解し、こどもと家族に対する支援の在り方を検討する。 [到達目標] 現代の子どもを取り巻く環境を理解し、成長発達過程に合わせた支援を考察する。	
6 (岩本)	[授業概要]現代の子どもに増加している健康問題（アレルギーの増加、生活習慣病、発達障害）について理解し、発達段階に合わせた支援の在り方を検討する。 [到達目標] 現代の子どもの健康問題の特徴を理解し、子どもと家族に対する支援を考察する	
7 (玉井)	[授業概要]感染症保健を取り巻く現状を理解し、効果的な保健対策の在り方を検討する。 [到達目標] 地域の現状をデータから分析し、地域での感染症対策を理解する。	
8 (玉井)	[授業概要] さまざまな健康問題およびさまざまなステージへの健康支援の在り方について検討する。	

	〔到達目標〕 健康の概念からさまざまなステージにおける個人や集団への具体的な健康支援策を多面的に考察する。	
テキスト（配付資料）	配付資料	
参 考 文 献	概要に示されているテーマに関連する研究論文、8050 問題実態調査結果（厚生労働省等）、虐待事例に関する厚生労働省実態調査資料。	
評 価 方 法	課題レポートおよび発表内容を総合的に評価する。	
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	健康支援実践学特論Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 大山由紀子、大倉和子、藤原浩子、和辻 直、廣 正基					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	複雑で困難な課題や多種多様の多重課題を抱えた事例が増えているなかで、具体的な事例を用いて、困難事例の課題や問題を解決するために実践的かつ効果的に健康支援を行う方法や対象事例への関わり方等について教授する。 (オムニバス方式／全8回) (大山由紀子／2 回、大倉和子 2 回 /藤原浩子 2 回) 癌、児童虐待、難病、認知症、精神障がい等に対する健康支援において、最新の知見を用いた実践的かつ効果的な支援方法について教授する。 (和辻 直／1 回) 東洋医学的な観点から癌や難病の捉え方とその対応の仕方について教授する。 (廣 正基／1 回) 東洋医学的な観点から癌や難病以外の健康障害の捉え方とその対応の仕方について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ね ら い)	1. 癌、難病、認知症、生活習慣病など困難事例への支援において、人間とは何か、生きるとは何かを深く考察し、患者の権利と自己決定を尊重した支援のあり方について理解する。 2. 児童虐待や医療的ケア児などの困難事例について、実践事例を用いて看護支援のあり方を考える。 3. 東洋医学の観点から、健康障害の捉え方及び対応方法を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (大山)	[授業概要] 死生観について [到達目標] 自己の死生観を振り返り、対象の生を支える支援方法について理解できる。			生きることの意味、人生の意味を自らに問う		
2 (大山)	[授業概要] 死生観について [到達目標] 死にゆく過程の疑似体験により、対象の苦悩について理解できる。					
3 (大倉)	[授業概要] 難病患者を支えるネットワークづくりについて [到達目標] 医療依存度の高いALS 患者や医療的ケア児の在宅療養生活を支える医療・介護・福祉連携について理解し説明することができる。			関連する新聞記事から自分自身の考えを述べる（課題提出）。		

4 (大倉)	[[授業概要]児童虐待予防の支援について [到達目標]児童虐待予防につながる子育て支援ネットワークの実践事例から、地域支援活動のあり方を考えることができる。	関連する新聞記事等から自分自身の考えを述べる（課題提出）。
5 (藤原)	[授業概要] 認知症本人と家族支援について [到達目標]認知症の人と共に生きる地域づくりの展開を本人及び家族の視点から考え、説明することができる。	認知症の本人とその家族への支援について、自己の考えを述べる（課題提出）。
6 (藤原)	[授業概要] 精神障がい者の地域における支援について [到達目標]精神障がい者を地域で支えるための医療・福祉を包括した仕組みと支援の実際について理解し、よりよい対策について考えを述べることができる。	言葉の概念を復習しておく ・リカバリー ・エンパワーメント 精神障がい者に対する支援について、自己の考えを述べる（課題提出）。
7 (和辻)	[授業概要] 東洋医学の観点から癌の捉え方、その対応の仕方の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学における癌の病態把握の概要を理解でき、その対応の仕方の要点を説明できる	東洋医学における癌の病態把握の概要、その対応の仕方の要点をまとめる（課題提出 500～600 字）。
8 (廣)	[授業概要]東洋医学の観点から癌や難病以外の健康障害の捉え方、その対応の仕方の概要を学習する。 [到達目標] 東洋医学における生活習慣病などの健康障害の捉え方、その対応の仕方の概要を学習する。	東洋医学における健康障害(生活習慣病)の捉え方、その対応の仕方の要点をまとめる（課題提出）。
テキスト（配付資料）		配布資料 新・京都式オレンジプラン（2018，京都地域包括ケア推進機構）
参 考 文 献		
評 価 方 法		
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	実践疫学特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 桂 敏樹、玉井公子、細川陸也、大橋純子					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	予防活動や健康支援活動の実践に活用できる疫学研究の実用的な事例について教授する。また、保健施策、保健事業を評価する研究や研究成果を社会に実装する活動報告の事例について教授する。 （オムニバス方式／全15回） （桂 敏樹／6回） コホート研究、症例対照研究、保健施策の評価研究及びその実践的な応用事例について教授する。 （玉井公子／3回） 保健医療における測定尺度・指標開発の研究方法及びその実践的な応用事例について教授する。 （細川陸也／3回） 母子保健領域における共分散構造分析等を用いた研究方法及びその実践的な応用事例について教授する。 （大橋純子／3回） 老人保健領域における介入研究、評価研究及びその実践的な応用事例等について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い ）	1．疫学的な研究手法とその実践応用事例を理解する 2．尺度開発とその実践応用事例を理解する 3．仮説モデル検証の研究手法とその実践応用事例を理解する 4．介入研究の手法とその実践応用事例を理解する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 （桂）	[授業概要] 症例対照研究及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 症例対照研究及びその実践的な応用事例について理解できる。					
2 （桂）	[授業概要] コホート研究及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] コホート研究及びその実践的な応用事例について理解できる。					
3 （桂）	[授業概要] 保健施策の評価研究及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 保健施策の評価研究及びその実践的な応用事例について理解できる。					
4 （桂）	[授業概要] 保健事業の評価研究及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 保健事業の評価研究及びその実践的な応用事例について理解できる。					
5	[授業概要] 保健医療における測定尺度・					

(玉井)	指標開発の研究方法について教授する。 [到達目標] 保健医療における測定尺度・指標開発の研究方法について理解できる。	
6 (玉井)	[授業概要] 測定尺度・指標開発の実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 保健医療における測定尺度・指標開発について理解できる。	
7 (玉井)	[授業概要] 測定尺度・指標開発の実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 保健医療における測定尺度・指標開発について理解できる。	
8 (細川)	[授業概要] 母子保健の研究方法及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 母子保健の研究方法及びその実践的な応用事例について理解できる。	
9 (細川)	[授業概要] 共分散構造分析の方法及びその実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 共分散構造分析の方法及びその実践的な応用事例について理解できる。	
10 (細川)	[授業概要] 横断研究、縦断研究、介入研究の実践的な応用事例について教授する。 [到達目標] 横断研究、縦断研究、介入研究の方法と応用事例について理解できる。	
11 (桂)	[授業概要] 多変量解析の応用事例と、保健活動に繋がる研究事例について教授する。 [到達目標] 多変量解析の応用事例と、保健活動に繋がる研究事例について理解できる。	
12 (大橋)	[授業概要] 介入研究及びその実践的な応用事例等について教授する。 [到達目標] 介入研究及びその実践的な応用事例等について理解できる。	
13 (大橋)	[授業概要] 評価研究及びその実践的な応用事例等について教授する。 [到達目標] 評価研究及びその実践的な応用事例等について理解できる。	
14 (大橋)	[授業概要] 老人保健領域における介入研究及び評価研究について教授する。 [到達目標] 老人保健領域における介入研究及び評価研究について理解できる。	
15 (桂)	[授業概要] 様々な疫学手法を実際の保健活動に応用する方法についてまとめを行	

	う。 [到達目標] 実際の保健活動に様々な疫学手法をどのように応用できるかを理解できる。	
テキスト（配付資料）	配布資料	
参 考 文 献	適宜紹介する	
評 価 方 法	レポート評価	
その他（アドバイス等）	公衆衛生や臨床において活用できる疫学手法について研究実践例を踏まえ学修を深めてください。	

授 業 科 目 名	保健医療政策学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 田中小百合、大倉和子、東 孝至、小野直哉					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	予防活動や健康支援活動に関連する制度、法律、政策、地域保健医療福祉システム、地域ネットワーク、地域づくり・街づくり等について教授する。また、有限の医療保健・介護福祉費用を適正化し健康寿命を延伸するための保健事業について政策科学的、医療経済学的な視点から教授する。 (オムニバス方式／全8回) (大倉和子／2回) 医療保健に関連する制度及び政策の立案、ネットワーク・システム化について教授する。 (東 孝至／2 回) 地域福祉活動に関連する制度及び政策の立案、ネットワーク・システム化について教授する。 (田中小百合／2 回) 地域包括ケアの構築、地域づくりや保健と福祉の連携等について教授する。 (小野直哉／2 回) 有限の医療保健・介護福祉費用を適正化するための医療経済学的な事例について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ね ら い)	1. 予防活動や健康支援活動に関連する制度、法律、政策、地域保健医療福祉システム、地域ネットワークについて理解する。 2. 予防活動や健康支援活動に関連する地域づくり・街づくり等について理解する。 3. 有限の医療保健・介護福祉費用を適正化し健康寿命を延伸するための保健事業について政策科学的、医療経済学的な視点から理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1、2 (大倉)	[授業概要] 保健医療政策を進めるうえでの法律、制度、ネットワーク・ケアシステム構築及び政策立案について [到達目標] 関連する法律・制度や地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築のプロセスを理解する。			それぞれの立場から南丹市の現状の課題や提案をレポートにまとめる。		
3、4 (東)	[授業概要] 高齢者福祉に関する法律、制度、ネットワーク・ケアシステム構築について [到達目標] 高齢者福祉に関する法律、制度、ネットワークなどについて理解する。					

5、6 (田中)	[授業概要] 予防活動や健康支援活動に関連した地域づくり・街づくりについて [到達目標] 入院～療養生活、および地域の多職種連携・協働を理解する。	
7 (小野)	[授業概要] 医療経済学の概要に付いて [到達目標] 医療経済学の概要に付いて理解する。	有限の医療保健・介護福祉費用を適正化する医療経済学の概要を理解し、それぞれの専門性において、医療経済学的視点の利活用を考える
8 (小野)	[授業概要] 医療経済学で用いられる主な評価方法等に付いて [到達目標] 医療経済学で用いられる主な評価方法等に付いて理解する。	
テキスト（配付資料）		随時担当教員が資料を配布する
参 考 文 献		地域包括ケアシステム（厚生労働省） その他、講義時に文献を提示する
評 価 方 法		レポート等課題（大倉・東・田中教員 70%、小野教員 30%）の配分で評価する
その他（アドバイス等）		全ての講義に出席することを希望します

授 業 科 目 名	健康危機管理学特論【選択必修】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 玉井公子、大倉和子、扇田千代、高橋 司、千田いずみ					
テ ー マ	災害やパンデミックの発生時における健康危機管理及び管理体制の構築について					
授 業 の 概 要	災害やパンデミックの発生時における健康危機管理及び健康危機管理体制の構築について事例を用いて教授する。また、災害やパンデミックの発生時における行政と医療機関等との連携体制、医療機関内での連携体制の構築などの医療体制の整備、チーム医療、職種間の連携について事例や文献を用いて教授する。 (オムニバス方式／全8回) (玉井公子／3回) 災害時等における健康危機管理、健康危機管理体制の構築について教授する。 (高橋 司／2回) 災害時等における救命救急システムについて教授する。 (大倉和子／1回) 災害時における保健行政と医療機関等の連携、心のケアについて教授する。 (扇田千代／1回) 災害時における感染対策について教授する。 (千田いずみ／1回) 地域・学校における救命時の救急蘇生法の教育・普及について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ね ら い)	1. 健康危機管理及び健康危機管理体制の構築について理解する。 2. 災害時における保健行政と医療機関等の連携、心のケアについて理解する。 3. 災害時等における救命救急システムについて理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (玉井)	[授業概要] 健康危機管理及び健康危機管理体制の構築について事例（パンデミック）を用いて考える。 [到達目標]健康危機管理について理解する。					
2 (玉井)	[授業概要] 健康危機管理及び健康危機管理体制の構築について事例（災害時）を用いて考える。 [到達目標] 健康危機管理について理解する。					
3 (大倉)	[授業概要] 災害時における保健行政と医療機関等の連携について事例を通して考える。 [到達目標] 災害時における保健行政と医					

	療機関等の連携について理解する。	
4 (扇田)	[授業概要] 災害時における感染対策を考える。 [到達目標] 災害時における感染対策について理解する	
5 (高橋)	[授業概要] 災害時等における救命救急システム（総論）を考える。 [到達目標] 災害時における救命救急システムを理解する。	
6 (高橋)	[授業概要] 事例を用いて、災害時等における救命救急システム（各論）を考える [到達目標] 過去の事例と時期災害に向けた取り組みを通して災害時の救命救急システムを知る。	
7 (千田)	[授業概要] 心肺蘇生の普及・教育のための方策について事例を用いて考える。 [到達目標] 心肺蘇生の普及・教育の必要性を理解し、現在行われている取り組み（研究）について知る。	
8 (玉井)	[授業概要] 災害やパンデミックの発生時における健康危機管理及び管理体制の構築について考える。 [到達目標] 災害やパンデミックの発生時における健康危機管理及び管理体制の構築について理解する。	
テキスト（配 付 資 料 ）	配布資料	
参 考 文 献	講義で示す。	
評 価 方 法	自主的参加態度および発表内容などで総合的に評価する。	
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	地域診断コミュニティデザイン学特論【選択必修】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 桂 敏樹、石川信仁、井原一成、白川 透					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	健康に関連する様々な情報を収集、分析し、健康課題を抽出して課題を解決するための計画を立案、実施、評価する方法について教授する。 また健康情報の分析結果を利活用して、コミュニティデザインに基づく地域づくりの方法や健康政策の立案等について教授する。 (オムニバス方式／全8回) (桂 敏樹／3回) 健康関連情報を収集、分析する方法や、健康課題を抽出し、課題を解決するための取り組みや地域づくりについて教授する。 (石川信仁／2回) 地域の課題を解決するための健康な街づくりの事例について教授する。 (井原一成／2回) 集団の健康関連情報の多角的分析（A I）による健康課題の抽出から健康政策の立案、公衆衛生活動の展開について教授する。 (白川 透／1回) 持続可能な地域づくりのための事例として過疎地域における救急救命システムの構築について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い）	1. 地域課題の明確化のプロセスを理解する。 2. 地域ニーズ解決に至る施策化、予算化を理解する。 3. 健康な街づくりにおける住民協働を理解する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (桂)	[授業概要] 健康関連情報を収集、分析する方法や、健康課題を抽出し、課題を解決するための取り組みや地域づくりについて教授する。					
2 (桂)	[授業概要] 健康関連情報を収集、分析する方法や、健康課題を抽出し、課題を解決するための取り組みや地域づくりについて教授する。					
3 (石川)	[授業概要] 公営住宅高齢者健康増進のための、実態調査から事業化に至る関係機関協働の取り組みを学ぶ。 [到達目標] 政策立案から予算化に至る経緯を学び公衆衛生活動の役割を教授する。					
4	[授業概要] 極低出生体重児支援事例等か					

(石川)	ら、地域の健康問題の構造を明らかにし、施策化へのプロセスを学ぶ。 [到達目標] 地域ニーズ解決のための地域づくりのまでの住民協働のプロセスを理解する。	
5 (井原)	[授業概要] 集団の健康関連情報の多角的分析（A I）による健康課題の抽出から健康政策の立案、公衆衛生活動の展開について教授する。 [到達目標] 情報分析により健康課題の抽出ができるようになる。	
6 (井原)	[授業概要] 集団の健康関連情報の多角的分析（A I）による健康課題の抽出から健康政策の立案、公衆衛生活動の展開について教授する。 [到達目標] 健康政策の立案及び公衆衛生活動について展開できる	
7 (白川)	[授業概要] 常備消防を設置していない地域における救急搬送システムの構築について教授する。 [到達目標] 常備消防を設置していない地域における救急搬送システムの現状と解決策の一端を理解する。	
8 (桂)	[授業概要] 健康に関連する様々な情報を収集、分析し健康課題を抽出して課題を解決するための計画を立案、実施、評価する方法について教授する。 [到達目標] 健康情報の分析結果を活用したコミュニティデザインに基づく地域づくりの方法や健康政策の立案等についての方向性を理解する。	
テキスト（配付資料）	適宜資料を配布する	
参 考 文 献	関連する研究論文。	
評 価 方 法	講義参加状況、レポート等を評価する	
その他（アドバイス等）	公衆衛生・保健活動は実践科学であることを踏まえ、様々な研究成果の実践活動への応用や地域・街づくりへの適応の事例を、様々な情報源から一早く収集し観察する習慣を身に付けよう。	

授 業 科 目 名	心理コンサルテーション学特論【選択必修】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 小西奈美、藤原浩子、池田正樹					
テ ー マ	現代社会における様々な心理臨床の場面において、コンサルテーションの知識・技法に基づく精神心理学的な対応方法や援助者としての基本姿勢について教授する。					
授 業 の 概 要	健康支援や治療の場における援助者としての精神心理学的な対応方法やコンサルテーション技法について教授する。また、支援場面における援助者としての心理コンサルテーション技法や精神心理学的な対応方法を修得するための演習を行う。 (オムニバス方式／全8回) (池田正樹／4回) 精神心理学的な対応方法やコンサルテーション技法等について教授する。 (小西奈美／3回) コンサルテーションに関する基本概念と援助方法等ついて教授する。 (藤原浩子／1回) コンサルテーションを活用した支援場面における精神心理学的な対応について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ね ら い)	1. コンサルテーションの基本的な考え方と役割について理解することができる。 2. コンサルテーションのタイプとモデルを理解することができる。 3. コンサルテーションの展開について理解することができる。 4. コンサルテーションの知識や技術を実践に活かすことができる。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 (池田)	[授業概要] 臨床心理学の概観 [到達目標] 精神心理学的な対応方法の基礎となる、臨床心理学の概観を理解する。					
2 (池田)	[授業概要] 心理支援の基本Ⅰ [到達目標] 心理的支援を行うための基礎知識を理解する。					
3 (池田)	[授業概要] 心理支援の基本Ⅱ [到達目標] 心理支援における共感と傾聴について理解する。					

4 (池田)	[授業概要] 心理的問題の見立てと非専門家としての対応 [到達目標] 落ち込みや不安に対する認知行動療法的見立てと、非専門家の人が行うべき対応方法を理解する。	
5 (小西)	[授業概要] コンサルテーションの基本概念 [到達目標] コンサルテーションと他の援助方法の違いについて理解する。 コンサルタント・コンサルタンティ・クライアントの関係性に基づいてコンサルテーションの意義について理解する。	関連文献からコンサルテーションについて調べておく。
6 (小西)	[授業概要] コンサルテーションにおける4タイプと3モデルの特徴について [到達目標] G・Caplanにおけるメンタルヘルス・コンサルテーションを基に4つのタイプと3つのモデルの特徴を理解する。 援助場面における精神心理学的な対応について理解する。	G・Caplanの文献からコンサルテーションにおける4タイプと3モデルの特徴について事前に調べておく。
7 (藤原)	[授業概要] コンサルテーションの事例展開と発表 [到達目標] コンサルテーションを活用することによる効果と意義について理解する。 自身のこれまでの体験の中からコンサルテーションを活用できると考えた事例をまとめ発表できる。	自身のこれまでの体験の中からコンサルテーションを活用できると考えた事例を発表するための資料を事前に作成する。
8 (小西)	[授業概要] まとめ [到達目標]	
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		
評 価 方 法		レポート、プレゼンテーションの内容 演習とディスカッションへの参加状況を総合して評価する。
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	情報科学活用学特論【選択必修】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	◎ 村瀬智一、高橋由光、仁木一順					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	医療や保健における情報科学技術の最新の活用事例や今後の展望について教授する。また、ビッグデータの解析結果を保健医療に応用する事例や、予防活動や健康支援活動における情報科学技術（I C T等）の身近な活用事例について最新の知見を教授する。 （オムニバス方式／全8回） （村瀬智一／4回） 医療保健における最新の情報科学技術の応用事例及び健康づくりにおける I C T利活用の最新応用事例を教授する。 （高橋由光／2回） ビッグデータ解析と保健活動への応用について教授する。 （仁木一順／2回） 情報科学技術の医療保健への応用について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い）	1. 2. 3.					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 （村瀬）	[授業概要] ICT の活用事例と仕組みを支える基礎技術について [到達目標] ICT の活用事例と仕組みを支える基礎技術について理解する					
2 （村瀬）	[授業概要] MRI 画像を中心とした研究における情報科学技術の活用について[到達目標] MRI 画像を中心とした研究における情報科学技術の活用について理解する					
3 （村瀬）	[授業概要] 医療画像における AI 技術の活用について [到達目標] 医療画像における AI 技術の活用状況を知り、今後の応用の広がりについて考える					
4 （高橋）	[授業概要] EBM と疫学研究について [到達目標] EBM (Evidence-based medicine) と（大規					

	模) 疫学研究について理解する	
5 (高橋)	[授業概要] 大規模コホートや医療ビッグデータデータについて [到達目標] 大規模コホートや医療ビッグデータデータに関する研究を紹介し保健活動への応用事例を知る	
6 (仁木)	[授業概要] 医療保健において応用される情報科学技術について [到達目標] 現在、医療保健において期待されている情報科学技術について理解する。	
7 (仁木)	[授業概要] 情報科学技術の応用例と将来展望について [到達目標] 情報科学技術の医療応用例を知り、将来の医療保健の在り方について考える。	
8 (村瀬)	[授業概要] まとめ [到達目標]	
テキスト(配付資料)	村瀬；特に教科書は定めない。授業時にハンドアウトを配布する。	
参 考 文 献	1. Niki K, Okamoto Y, Maeda I, et al. A Novel Palliative Care Approach Using Virtual Reality for Improving Various Symptoms of Terminal Cancer Patients: A Preliminary Prospective, Multicenter Study. <i>J Palliat Med.</i> 2019;22(6):702-707. 2. Niki K, Yahara M, Inagaki M, et al. Immersive Virtual Reality Reminiscence Reduces Anxiety in the Oldest-Old Without Causing Serious Side Effects: A Single-Center, Pilot, and Randomized Crossover Study. <i>Front Hum Neurosci.</i> 2021;14:598161.	
評 価 方 法		
その他(アドバイス等)		

授 業 科 目 名	ヘルスケア創業経営学特論【自由科目】					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 （◎は単位認定者）	白川 透、中根 一、戸辺 誠、新宮美紀、三木裕昭、 中尾美千代、井倉一政					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	医療専門職（鍼灸師、柔道整復師、救急救命士、訪問看護師、開業助産師、開業保健師、スポーツトレーナー等）による創業、起業・経営やマーケティング、経営マネジメント、医療の質の担保、国際保健・国際貢献、今後の展望について教授する。 （オムニバス方式／全7回） （白川 透） 民間による地域救急医療支援サービスの創業、経営マネジメント等と今後の展望について教授する。 （中根 一） 医療専門職によるヘルスケア創業や、鍼灸院と他のヘルス産業との連携(提携)、起業・経営のためのマネジメント手法、今後の展望等について教授する。 （戸辺 誠） 発展途上国の J I C A活動を踏まえて国際保健事業・国際貢献と今後の展望について教授する。 （新宮美紀） 地域における助産院開院・経営や母子支援システムの構築と今後の展望について教授する。 （三木裕昭） スポーツトレーナーによるヘルス産業との連携(提携)、起業、経営マネジメント等の手法と今後の展望について教授する。 （中尾美千代） 訪問看護ステーションの起業と経営マネジメント等と今後の展望について教授する。 （井倉一政） 保健師の起業と経営マネジメント、今後の展望について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 （ね ら い ）	1. 医療専門職による創業、起業・経営について教授する。 2. 経営マネジメント、医療の質の担保について教授する。 3. 医療専門職による創業の今後の展望について教授する。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1 （白川）	[授業概要]民間地域救急医療支援サービスの創業と今後の展望について教授する。 [到達目標] 民間救急医療支援サービスの創業と今後の展望について理解できる。					
2 （中根）	[授業概要]鍼灸院とヘルス産業との連携(提携)等と今後の展望について教授する。 [到達目標]鍼灸院とヘルス産業との連携等と今後の展望について理解できる。					

3 (戸辺)	[授業概要] JICA活動を踏まえて国際保健事業と今後の展望について教授する。 [到達目標] JICA活動を踏まえ国際保健事業と今後の展望について理解できる。	
4 (新宮)	[授業概要] 助産院経営、母子支援システム構築と今後の展望について教授する。 [到達目標] 助産院経営、母子支援システム構築と今後の展望について理解できる。	
5 (三木)	[授業概要] 医療系スポーツトレーナーによるヘルス産業との連携や関わり方について教授する。 [到達目標] 医療系スポーツトレーナーによる起業の今後の展望について理解できる。	どのようなスポーツ系資格があるのか各自調べておく。
6 (中尾)	[授業概要] 訪問看護ステーションの起業等と今後の展望について教授する。 [到達目標] 訪問看護ステーションの起業等と今後の展望について理解できる。	
7	[授業概要] 保健師の起業と経営マネジメントと今後の展望について教授する。 [到達目標] 保健師の起業と経営マネジメントと今後の展望について理解できる。	
8	[授業概要] [到達目標]	
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		適宜紹介する
評 価 方 法		レポートによる評価
その他（アドバイス等）		様々な分野のスペシャリストが語る、ヘルスケア分野における創業、起業、運営等の事例から、国内外のヘルスケアの将来性について学修してください。

授 業 科 目 名	特別演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年通年
授 業 担 当 者	桂 敏樹、田中小百合、玉井公子、 栗山真由美、坪倉浩美、森岡朋子、大山由紀子、今井理香、 和辻 直、廣 正基、齊藤昌久、木村篤史、木村隆彦、千田いずみ					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	各研究指導教員の下、保健学に関する修士論文の作成に必要な国内外の最新の論文を検索し、クリティークを行い、リサーチクエスションと研究課題の明確化、研究枠組みの洗練、研究方法の具体化などを進め、研究計画書、倫理審査申請書、研究助成申請書等の作成の仕方について教授する。 （桂 敏樹） 介護予防・フレイル対策、生活習慣病予防、健康増進、健康政策策定評価等予防活動についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （田中小百合） 地域における在宅療養者とその家族に対する健康支援、及び訪問看護師に必要な資質・能力についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （玉井公子） 看護職（保健師等）の職務満足度の構成要素と職務満足度に影響を及ぼす要因についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （栗山真由美） 地域高齢者への認知症予防のための運動指導を通して、脳機能維持に関連した健康づくりについての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （坪倉浩美） 養育者の幼少期の被虐待経験が子どもの養育に及ぼす影響に関する演習を担当する。 （森岡朋子） 地域包括ケアにおける多職種協働、認知症の本人とその家族に対する認知症ケア、専門職のレジリエンスについての研究と計画書作成に関する演習を担当する。 （大山由起子） 地域における終末期医療・ターミナルケアと地域住民のエンドオブライフ、死生観についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （今井理香） 高度先進医療を受けた対象が退院後の療養生活の質の向上を目指すために必要な看護支援についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （和辻 直） 東洋医学的な観点からの難病に対するアプローチについての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （廣 正基） 東洋医学的な観点からの生活習慣病等の予防に対するアプローチについての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （齊藤昌久） エクササイズが地域住民（中高年者）のフィットネス（ヘルスプロモーション：認知症・ロコモ等の予防）に及ぼす効果に					

	についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （木村篤史） シニア世代が抱える運動機能障害へのアプローチについての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （木村隆彦） 地域防災力向上の観点から、水難時生還技術を取り入れた豪雨災害避難行動と実践的防災訓練要領に関する研究と研究計画作成に関する演習を担当する。 （千田いずみ） 地域・学校における救命時の救急蘇生法の教育・普及についての研究と研究計画作成に関する演習を担当する。
授 業 目 標 ・ 視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。
テキスト（配付資料）	各研究指導教員の指示による。
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	

授 業 科 目 名	特別研究					
単 位 数 等	単位数	8 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年通年
授 業 担 当 者	桂 敏樹、田中小百合、玉井公子、栗山真由美、 坪倉浩美、森岡朋子、大山由紀子、今井理香、 和辻 直、廣 正基、齊藤昌久、木村篤史、木村隆彦、千田いずみ					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要 -	各研究指導教員の下、保健学の専門領域に関する研究を行う。特別研究を行うにあたって、研究指導教員から面談と指導を受けながら、研究課題を設定し、研究計画に沿って研究を実施し修士論文を仕上げる。研究指導を担当する教員の研究課題は、下記のとおりである。 （桂 敏樹） 介護予防・フレイル対策、生活習慣病予防、健康増進、健康政策策定評価等予防活動についての研究を指導する。 （田中小百合） 地域における在宅療養者とその家族に対する健康支援、及び訪問看護師に必要な資質・能力についての研究を指導する。 （玉井公子） 看護職（保健師等）の職務満足度の構成要素と職務満足度に影響を及ぼす要因についての研究を指導する。 （栗山真由美） 地域高齢者への認知症予防のための運動指導を通して、脳機能維持に関連した健康づくりについての研究を指導する。 （坪倉浩美） 養育者の幼少期の被虐待経験が子どもの養育に及ぼす影響に関する研究を指導する。 （森岡朋子） 地域包括ケアにおける多職種協働、認知症の本人とその家族に対する認知症ケア、専門職のレジリエンスについての研究を指導する。 （大山由起子） 地域における終末期医療・ターミナルケアと地域住民のエンドオブライフ、死生観についての研究を指導する。 （今井理香） 高度先進医療を受けた対象の退院後の療養生活支援についての研究を指導する。 （和辻 直） 東洋医学的な観点からの難病に対するアプローチについての研究を指導する。 （廣 正基） 東洋医学的な観点からの生活習慣病等の予防に対するアプローチについての研究を指導する。 （齊藤昌久） エクササイズが地域住民（中高年者）のフィットネス（ヘルスプロモーション：認知症・ロコモ等の予防）に及ぼす効果について研究を指導する。 （木村篤史） シニア世代が抱える運動機能障害へのアプローチについての研究を指導する。 （木村隆彦） 地域防災力向上の観点から、水難時生還技術を取り入れた豪雨災害避難行動と実践的防災訓練に関する研究を指導する。 （千田いずみ） 地域・学校における救命時の救急蘇生法の教育・普及についての研究を指導する。					

授 業 目 標 ・ 視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。
テキスト（配付資料）	配布資料
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	

MEMO